

I. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援

企業再生ファンド活用による事業再生

(金融機関名)伊予銀行

1. 動機(経緯)	・業績不振で過剰債務であった取引先(サービス業)について、従来より再建策を模索してきたが、営業力と顧客サービスの高評価から再建可能性が高いと判断し、地域再生ファンドを利用した抜本的再建策の検討を開始した。
2. 概要	・中小企業基盤整備機構、地元各銀行等が出資する地域再生ファンドが、銀行の債権を買取り。 ・旧経営陣は経営責任を取り全員退陣。 ・業界経験が豊富で企業再生の実績がある人物が代表取締役就任し、営業面を中心に抜本的改革を実施。 ・地域再生ファンドによるハンズオン支援実施にて、収益・事業価値の回復を図る。
3. 成果(効果)	・約2年半の再生期間を経て業績が回復し、企業価値が向上。 ・会社分割により、資産・従業員の殆どを新会社に譲渡。 ・銀行は企業価値に見合う金額をリファイナンス資金として新規融資実行。 ・地域再生ファンドは残債権について債権カット。
4. 今後の予定(課題)	・経営管理の高度化と定着化 ・金融機関によるモニタリング体制の強化

地域再生ファンド活用による事業再生

◎ 再生のポイント

- ◇ 地域再生ファンドが銀行の債権を買取り、ハンズオン支援を実施
- ◇ 新しい経営者による業績回復後、会社分割を実施

